

卷之四

張

夢

[illegible]

七月廿一

西報

三

あり 書 親の御件に後を承りて子承りて此下は
方々御名に付ておぼえ奉る 重之権也此方
おぼえのまゝに承りて

東軒新所
吾兄之所
喜色然也
撥出垂注
之

[illegible]

廿月

乙未新榮

[illegible]

之録中則以わが録を種とす。其の録は
 我々の書に添へて其の録を毎巻中へ
 つけしむ。其の録は、我々の録に
 前を記す。其の録は、我々の録に
 上へ、下へ、其の録は、我々の録に
 其の録は、我々の録に

七月

之井新平

泉所録所書也。其の録は、我々の録に

[illegible]

中郎

泉所穀所盡也。水接之。而草木生焉。

[illegible]

泉所様へ
 小縁張込入れ
 りの
 の

七

以

二

泉所様へ
 小縁張込入れ
 りの
 の

中より此をとりて市中に賣る所なり
 たりとも其趣を知る所なり
 所なり此をとりて市中に賣る所なり
 所なり此をとりて市中に賣る所なり
 所なり此をとりて市中に賣る所なり

市に賣る

市に賣る

市に賣る

市に賣る所なり此をとりて市中に賣る所なり
 市に賣る所なり此をとりて市中に賣る所なり
 市に賣る所なり此をとりて市中に賣る所なり
 市に賣る所なり此をとりて市中に賣る所なり
 市に賣る所なり此をとりて市中に賣る所なり

一、如手按、
 此常入穀、
 後、
 又、
 未、
 弄、
 予、
 在、
 穀、

夜更勿論之者其出レテ合ハル高飛何レモ
 格交ノ由リ也其按ホクニシテ表ハリ耕ニ
 爲ニ其度左ノ内ニ在ニ格モ其トモリ必
 表ニ其度其方ハ人モ入ニセリ其候
 ニ格取ホク出ニ其教ニ其トモリ其
 此教ニ其トモリ其方ハ人モ入ニセリ
 其トモリ其方ハ人モ入ニセリ

八月

早稲刈部及モ其

今井新平

以書附寄新と云

一初令在寺より以中二年小

白米池而人より入る貴

右より市子候より市庭に候一切を是

主候出より引上申上申是は引上申より

概と貴族に申上申一掃申上申は申上

万人より入る貴族に申上申は申上

長より入る貴族に申上申は申上

申上

正七月

末上略

沙那山奉行不様

溪田村新所就書、西略

今市也 新所見白米、而、八合、

三新 穀石

常多打
与改
云云

以書付中云々

一 馬屋すろろ

一 坪屋是之ろろ

一 形は清洲城

一 真田城

一 三田城

一 江戸島

一 江戸島

中云々

陽心久勝
此以心外
此以心外

己巳

三

德

樂 常 山 行 記

少年子

上り市也、云来、云、西、遠、川、以、拂、以、抄、如、龍、
去、月、也、一、道、云、龍、云、月、爲、抄、是、示、上、所、以、底、
以、抄、云、云、云、龍、云、木、附、以、抄、如、以、門、左、氣、
以、抄、云、云、以、抄、云、龍、云、云、以、抄、云、云、云、

上り方中一親所 御用留 九名 名花月
 色一 名方 名花月 御用留 八名 名
 中 名方 名花月 御用留 八名 名
 名花月 名方 名花月 御用留 八名 名
 名花月 名方 名花月 御用留 八名 名
 名花月 名方 名花月 御用留 八名 名

いりきり

と丹新

ちねはつてふ 御用留 八名 名花月

口件
土
新
大
人
人

本方之町松城屋極之海より長城屋極
之資質長き足之云戸籍右之町之屋
子物之と家之町之と之と之と之と之と
十二下之町之町之町之町之町之町之町之
町之町之町之町之町之町之町之町之町之
町之町之町之町之町之町之町之町之町之
町之町之町之町之町之町之町之町之町之

7日

河村将白

山手町附有十是

此處中略略
 白以方為
 謝也

と
 字
 中

余所
 知

如
 所
 知

知

知
 所
 知

此處中略略
 白以方為
 謝也

余所
 知

如
 所
 知

此處中略略
 白以方為
 謝也

受

田中重太郎

佐

中重太郎

田中重太郎

太夫礼下泉所 亦在所 常自 然其 振理 抱定
 以りお 漏 初 物 此 あり 過 年 之 善 後 也 亦 以
 所 也 之 也 由 於 之 也 此 乃 也 又 以 り 初 漏 之 所
 以 初 之 乃 以 り 乃 乃 初 漏 之 所 以 初 漏 之 所
 以 初 之 乃 以 り 乃 乃 初 漏 之 所 以 初 漏 之 所

田中重太郎

田中重太郎

[illegible]

しりしめ

忠告をせしめしめ
やそ人
 何ぞ

しりしめしりしめしりしめしりしめしりしめ
 しりしめしりしめしりしめしりしめしりしめ

常盤新五郎様は平五郎に定使給ふと云ふ事
 可成り

四六五七八九十
 手書きの字に友に情にありと云ふ事

[illegible]

辨之
 交交
 振今
 分布
 玉振
 一交
 古通
 後持
 交交
 以後
 也

荷

之井

名起平龍

去紀不為村々所新分之人
 之要長節是
 中所以獲所者より高き中一呼
 之來
 日村為上とて之を、紅人外
 之也上とて
 之也上とて

西

北
江

列ある今九時。多々我足指ししる
 多し代い友人に中合し来りて多し
 多し

四月廿日

中法大寺

海老名氏能記

上中中教所白木谷賣之義再在赤付
 相托以在七寺多知五山ノ賣買其師也
 以味作上付多し相托寺候之義代

[illegible]

しよふねの連 どの下へ何をもお尋に何事
 とふ実こありし如くいふ事なれ共無き所
 ちめは交する否と連 ありし人

月

昔 吉井及もいふ

河津栢り

我分おせ

吉井

らふあて

吉井

右ふくし者れはれ

山崎のいふ入るを

白あふりふんをいり後ふめふり下通ふ

[illegible]

漢村船より来る舟に利令る所
金部一件の金人との通商を以て金部は
石炭買入のため沈没したる信入代、
河代金部への金を出せしめ、
手金と爲り、
他川中より是迄折上りする何れ
代金たりとし、
歩分金より引違返付の上で、
手金として引取らる。

17

西

五
五

必思書所以教上

今之招以與之今以采

貨金部

右者為所
利計
者為月
后元補
羅求
金子
綢連
逼至
方
王
方
以
以私
分日
之
者
是
一
日
多
公
一
為
折
平
小
年
美
人
將
法
七
方
一
者
兩
人
一
連
言
相
經
者
七
月
限
此
占
還
有
下
方
一
日
是
飛
之
貨
與
一
箱
手
按

備、之教令以上

天保十七年九月

市吏と通ぬ元元方と云ふ字に
何年、此に在り、以て人教と通ぬ、
作り、又、下と、和、我、下、備、之、教、令、と

辰九月

御郡に奉る所様

溪村

五斎名信

右村

他、改

兵、去

夜、
梅井、其、去

一酒之招致

上三曲村利之寺分買入

一酒之招致

口村寺分買入

一酒之招致

上三曲村利之寺分買入

一酒之招致

口村寺分買入

上三曲村利之寺分買入
口村寺分買入
上三曲村利之寺分買入
口村寺分買入

上三曲村利之寺分買入
口村寺分買入
上三曲村利之寺分買入
口村寺分買入

泉寺穀町王、後菊光、皇女、
 赤坂、信仲、手、以、大、
 所、岩、地、少、人、
 不、成、者、又、井、形、
 大、成、者、以、山、
 寺、
 寺、

西

子思子

株形

他

分庄之くは才
言可至人少寸
松葉分松竹松子蓋り

白
新
長代
三
為
解
音
多
は
支
細
い
方
少
く
く
子
列
子

心
思
心
少
く
く
子
列
子

以件士授岸才八少く

令九為

松葉分年、令此方、子列、
根、少松、上細、子列、子

子
聖
所
松
屋
大
少
り

金部白方

但此子自能為之 幸利是

此八子月派其母法細子部上

白井町
成屋
成屋

石部白方部上派其母法細子部上
此子自能為之 幸利是
此八子月派其母法細子部上
此子自能為之 幸利是
此八子月派其母法細子部上
此子自能為之 幸利是
此八子月派其母法細子部上
此子自能為之 幸利是

前書刻石之利是也。誠上卿。以爲市。其
海多。然之。在。之。極。窮。之。身。物。之。其。然。也。
上卿。所。知。也。市。之。其。然。也。乃。而。意。深。之。其。然。也。
然。之。也。其。然。也。乃。而。意。深。之。其。然。也。
乃。而。意。深。之。其。然。也。乃。而。意。深。之。其。然。也。

張氏

下

張

子知然

分年可

馬

御新田中より手紙

小井澤氏

いけりて授けりて、今、

ふ紀市に金所給金に當り、年所金に金七、
 中、の、金、は、是、の、以、得、下、給、金、を、上、の、所、
 へ、金、を、給、子、國、金、に、上、の、所、給、金、を、
 而、給、金、を、金、に、中、以、給、金、を、給、金、に、
 長、に、給、金、を、給、金、に、給、金、を、給、金、に、
 給、金、を、給、金、に、給、金、を、給、金、に、

以由番申取西よりおるは色は赤黒の病重
 之利是七々子より法名お病しと病と書る
 那原今お書おる方お病より病と書る
 以し病と書おる此病と書る
 以し病と書

西の部の方

おるの方

一 予取より病と書る
 以由番と書る
 以由番と書る

我々方此れと申すも、之れは、
 之れは、此れは、此れは、
 之れは、此れは、此れは、
 之れは、此れは、此れは、

八り廿四

山岡陽吉内

加藤兵衛

原

尾

市心持

金成

上杉

以

水
 御用留
 市中御用留

以書紙為軸之杖以御用留為又為之
 御用留之御用留御用留御用留御用留
 今所時御用留御用留御用留御用留御用留
 牛乃御用留御用留御用留御用留御用留
 中日之御用留御用留御用留御用留御用留
 御用留御用留御用留御用留御用留御用留
 御用留御用留御用留御用留御用留御用留

中付のりしあゝとあると
 公情のりし

九月二

水

片之信

席巻村平就

重信

五

字井信

山口國信

信

五

上杉重信

平山猪子

かき

山竹少種

[illegible]

九月六日

[illegible]

江戸世の御用留

一月

御用留

御用留

江戸世の御用留
御用留の御用留
御用留の御用留
御用留の御用留

御用留の御用留

御用留

御用留

江戸世の御用留

御用留の御用留

御用留の御用留

御用留

御用留

上
水
山

前書過部知各處以爲年
而部自以爲是
行其利也此其
利之一月海生部上

日可

弘治二年己酉

少年

日所
從
從
從
從

此件去後不日

人

此後之後日乃此後之我水此中其此後之此
 其此後之此後之此後之此後之此後之此後之
 此後之此後之此後之此後之此後之此後之
 此後之此後之此後之此後之此後之此後之
 此後之此後之此後之此後之此後之此後之

己九月

人

此後之此後之此後之此後之此後之此後之
 此後之此後之此後之此後之此後之此後之
 此後之此後之此後之此後之此後之此後之
 此後之此後之此後之此後之此後之此後之
 此後之此後之此後之此後之此後之此後之
 此後之此後之此後之此後之此後之此後之

[illegible]

ありしに

五里橋肉

飛鳥寺古蹟

一動區扣撲

少壯清之

[illegible]

ありと包み人熟出と月所取捨ふし需那
 所一儀化は未病人多くお中一統極
 子と信と女中と月小尺七物お茂言市元
 山崎左と信日此女后以御託高向跡と双
 不景急来る一統捨ふと此女山崎中何年
 心仁急を忘る旅言と具行りお出度と
 有る局熟と包と油と長身とと包と
 執持と女中と一信と御と熟と人

左
右

新
色
白
居
之
山

新

色
白
居
之
山

新
色
白
居
之
山

新
色
白
居
之
山

新
色
白
居
之
山

新
色
白
居
之
山

新

新
色
白
居
之
山

信長公御用留
 信長公御用留
 信長公御用留

常三郎

少事所

少事所

九十一

香林藏部

河津楊肉松

命所に付、角力、明中、たつ神に、
 事、作、通、無、り、中、我、士、や、
 知、く、は、あ、る、と、ん

九

何厚揚

會所需神多者亦為之角力
明十九日分
口數者與之
多者亦振之
通達れば建興
川中より市中
我生也故と云
穀亦山に安ん

中野方より新田より

九月十日

河津村

日向村

新田村
中野方より新田より
九月十日
河津村

新田村
中野方より新田より
九月十日
河津村

「あらはに候」

九月廿二日

河津楠内

左へ通 早まゐるに目付可くもしき

九月廿二日 早まゐるに目付可くもしき

和歌山

ふれあふに河津山の上はそはふふし、あらはに候

はらへに候、あらはに候、あらはに候、あらはに候

あらはに候、あらはに候、あらはに候、あらはに候

あらはに候、あらはに候、あらはに候、あらはに候

あらはに候、あらはに候、あらはに候、あらはに候

九十一

河津橋也

上下殺所多事八合 夢再意未何至如述之夢殺
 如白之乃今夢長至之乃 下之乃以所違
 之 御殺所之乃今之通 上之殺中今今夢
 今之乃之乃今之乃今之乃今之乃今之乃
 忘恨未紀 如上下大為對性性之乃 十里路
 今之乃之乃今之乃今之乃今之乃今之乃
 石之乃之乃今之乃今之乃今之乃今之乃

新穀より和合の一作にありて、其後、依りて古
 和合を合ひて、三米三米、新穀より三米、位大と
 ありし、おん、おん、七人、おん、古米三米、三米、三米、
 新米三米、三米、位大、おん、七人、おん、三米、三米、
 三米、おん、七人、おん、三米、三米、三米、三米、
 新穀の七人、おん、三米、三米、三米、三米、
 表、三米、價、換、三米、三米、三米、三米、
 表、三米、三米、三米、三米、三米、三米、
 表、三米、三米、三米、三米、三米、三米、
 表、三米、三米、三米、三米、三米、三米、

一、得ん其の主眼、底方之く史記は表の「蓋教
 所東市」内を不々大に異入する處角川自
 述、「玄来五ヶ四外」として下三三ヤ茶子令こ
 お為の方七ヶ減り高も多来吉リ茶系九令といひ
 何と為ふて平均お仰、あつたは良し良し發
 其中、蓋うねと云ふところ方多新く所も五按と云
 古来七八新来七八子夕賣ッ病、おぬ多戸、
 之云々、概論として先主從授和よりと云々
 此、ありたりと云ふ乃依是は脱ち自ら云ら遊す

石印

たり

河津橋

業附奉ト上ハ

一新白采 万又 七人

古七采 七人

石七初主候出引上上古而令在在り或中半分
新初式引少採不体り引心ニある中り名は長
小初主之通賣出中交り名は長出所在
中り名は長出中交り名は長出所在

己酉六月

清和寺奉納工様

心書

与政
名氏

三島所
柳屋
名藏

此作本屋所入馬人

右之者宅に菊生庵、掃到掃枕職人馬込と

中者 此公侯大尉盜賊改以在田平橋抄小仇
 池藏抄而為之候也之候而下所至所自旅宿也
 危迫あり正切抄り来り候身藏人より候り候も
 去ル古百朝緋金所陳之儀方（来り候方）事とや
 か之儀候之身在候とある（中）と云は左より（遠）
 之より（表）身と表候人（身）候と云は（中）と云
 外（中）通表候抄り（中）表候（中）と云

己九月

三長方所

徳新

治之儀

極金海世名飛しう若長柳枕磯乃し以馬飛
 子馬飛中しう若長方に里玉成る方馬飛
 若長右馬飛しう若長所結金所挑打金存
 屋陳之儀方永在柳枕磯乃し以者金乃見知
 所長苗九月十二日私方、此越磯分隣に就候に
 候し日在入用はつて世に是つ所長新なる幸い
 休事も是つに付在至交同月在百在大海金
 陳之儀方に是つ度方し此付の子馬飛磯乃
 是つ交請ふに方之割に何れに此越水乃來者

是

一 漢武百以振八

曰武振八也上

是八諸士中一泊分

一 漢八振八

曰八也上

是八石月以立念分

一 漢武百八

曰武也

是八諸士中

以武八也振八也上

所著漢書終末

在八武八也振八也上

ナリナリ

子代諸回心

一 濃七振武

内八ヶ 土ヶ

是八石口以 在菊一人 勢為怪 有之 食分

一 濃百七振武

四載振武 土ヶ

是八又者 中局 一酒分

一 濃武百振八

四載振武 土ヶ

是八酒分 此地 有 馬鹿 飛 御 知 之 音 酒分

一 濃八振

内八ヶ 土ヶ

是八石口以食分

石八定府山象中木能他示是惶走押菊之
 此誠所宿四宿之江初代天保十子二月廿
 五辰而是也中付色^以格外年數之五付
 西旅就海也其書上^以格外年數之五付
 考一西中付之就花辰及^以格外年數之五付

十月廿

市歌方

市歌方

市歌方

右之南正月中端高也通致方公呼也元冬以
 首長平之海軍。再借本隊。卜前書之通也
 神戶也

十月十日

河村梅田

自南正月中

南正月中
 近以盛賊高之。若入海。要。此。多
 相。之。時。在。才。之。元。歸。之。也。上。下。市。中

はたふ時
きつふ

十月十九

生乃秋信

天野信更

夢乃秋信

はたふ時

京市志匠を名にす

新木信更

上京人

一下後託

折上へ 是迄へ

以交よりおびし

りり

右々年秋諸事未だ生ずる主上へし義新公より病

し

十月二日

生交より降臨端日数亦お近なまの 其水 新
 右病今よりより限こさる如換身本もさるる場下
 と留り所など六所月文書宛信更ふより日数より
 兵衛り仕交より日延新しより右病如信交より

七ノ段に後方浄瑠璃木平家三傳人念五
 其方れおある事と遠浄瑠璃の文の以て其指
 一様と云ふ事と云ふ事と云ふ事何と云ふ交與り
 而も口紙の文様は交の様と云ふ事と云ふ事
 又其方れおある事と云ふ事と云ふ事何と云ふ交與り
 又其方れおある事と云ふ事と云ふ事何と云ふ交與り

十月六日

生駒萩出
河津楠内

三ノ段所々馬木様と云ふ事と云ふ事何と云ふ交與り
 又其方れおある事と云ふ事と云ふ事何と云ふ交與り

右ノ様は市ノ工方と云ふ事

少收者乃其新方物なりとの酒を中々
 乃其乳と云ふ安由割是に書し中絶太
 一併之を中絶海軍の物なりと云ふ
 振るも之を方割利に因縁と云ふ
 前條に引くべきなりと云ふ
 割の利に引くべきなりと云ふ
 此の割に引くべきなりと云ふ
 此の割に引くべきなりと云ふ
 此の割に引くべきなりと云ふ

市刑書

市刑書 市刑書 市刑書

市刑書 市刑書 市刑書 市刑書 市刑書

市刑書 市刑書 市刑書 市刑書 市刑書

市刑書 市刑書 市刑書 市刑書 市刑書

市刑書 市刑書 市刑書 市刑書 市刑書

市刑書 市刑書 市刑書 市刑書 市刑書

市刑書 市刑書 市刑書 市刑書 市刑書

市刑書 市刑書 市刑書 市刑書 市刑書

十月

市刑書

